

資産運用レポート：28年間の投資で得られた教訓

はじめに

私をはじめて株を買ったのは、1995年2月です。それから28年間、個人投資家として齢を重ねてきました。

今から振り返ってみれば、その過程は失敗の連続でした。「ああすれば良かった。こうすれば良かった」と悔やむことばかりです。

もっとも投資には失敗がつきものです。長年にわたり蓄積した失敗のデータベースは、私自身にとって貴重な無形資産であると自負しています。

折に触れて、このデータベースを参照することで、今後起こりえる失敗のいくつかを（全てではないにせよ）未然に防げるかもしれないからです。

今回の資産運用レポートでは、28年間の投資家生活を通じ、手痛い失敗から導き出した4つ教訓について述べます。

- (1) 買ったら売るな
- (2) パニックに備えておけ
- (3) FRBに逆らうな
- (4) 守備範囲から離れるな

(1) 買ったら売るな

初心者時代の私は「いったん買った株は、ずっと持ち続けるものだ」と頑なに思い込んでいました。現に1999年から2000年にかけて起こったITバブルでは、1株たりとも売っていません。

その信念が揺らぎはじめたのは、ITバブルの崩壊局面でした。ぬか喜びしている間に、相当額に達していた含み益が消えていったからです。

「とどのつまり、ITバブルでは、1円も儲けていない。果たして、それで良かったのだろうか」と自問自答する日が続きます。

その後、ヤフーの株式掲示板に投稿するようになると、メンバーの個人投資家さんもゆっくりしたペースながら売ったり買ったりしていました。